

ソフトバンクにおける AI事業者ガイドライン活用事例

ソフトバンク 株式会社
AIガバナンス推進室 室長
浦野 憲二



自己紹介

ソフトバンク株式会社
AIガバナンス推進室 室長



浦野 憲二
(うらの けんじ)

★略歴

2003年ソフトバンク入社。ブロードバンドネットワークの設計構築に従事し、日本テレコム、Vodafone日本法人買収に伴い音声ネットワークや携帯ネットワークの統合ネットワークの設計をリード。

その後、社内新規システムのプロジェクトマネジメントや本部統括業務、企画業務を経て2017年よりAIを活用したヘルスケア事業企画部長を担当し共同研究などを推進、2022年からAIガバナンスを推進する現職に至る。

AI事業者ガイドライン活用概要

リスク対策に活用

①ルール

②オペレーション

③判断軸

④内部監査

リテラシー向上に活用

①経営層

②全社員

③お客様

④自部署

リスク対策に活用

①ルール

1 AI倫理ポリシー

AIガバナンスの進めていく上での**基本方針**

2 社内規程

AIガバナンスを進める上で定めた**社内ルール**

3 ガイドライン

AIガバナンスを**推進するための補助資料**

本編 第2部C（共通の指針）

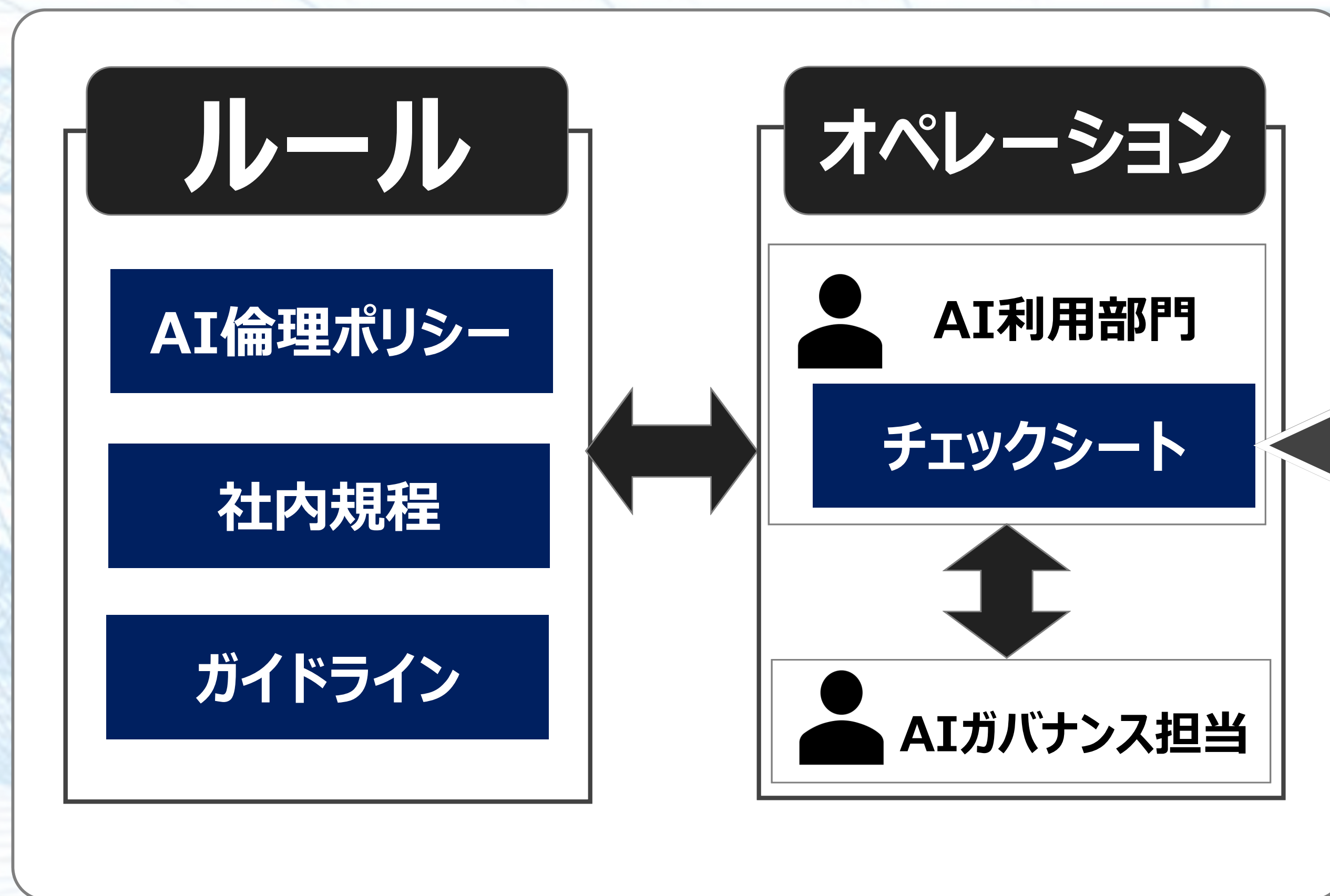
別添2（AIガバナンス構築）

本編 第3部 + 別添（AI開発者実践）
本編 第5部 + 一部第4部

全社共通“ルール”としての活用
（規程、ガイドライン、各種ルール制定に活用）

リスク対策に活用

②オペレーション




AI案件のチェックの“基準”として活用
(チェックシートのチェック項目に活用)

リスク対策に活用

③判断軸

AIガバナンス検討会議



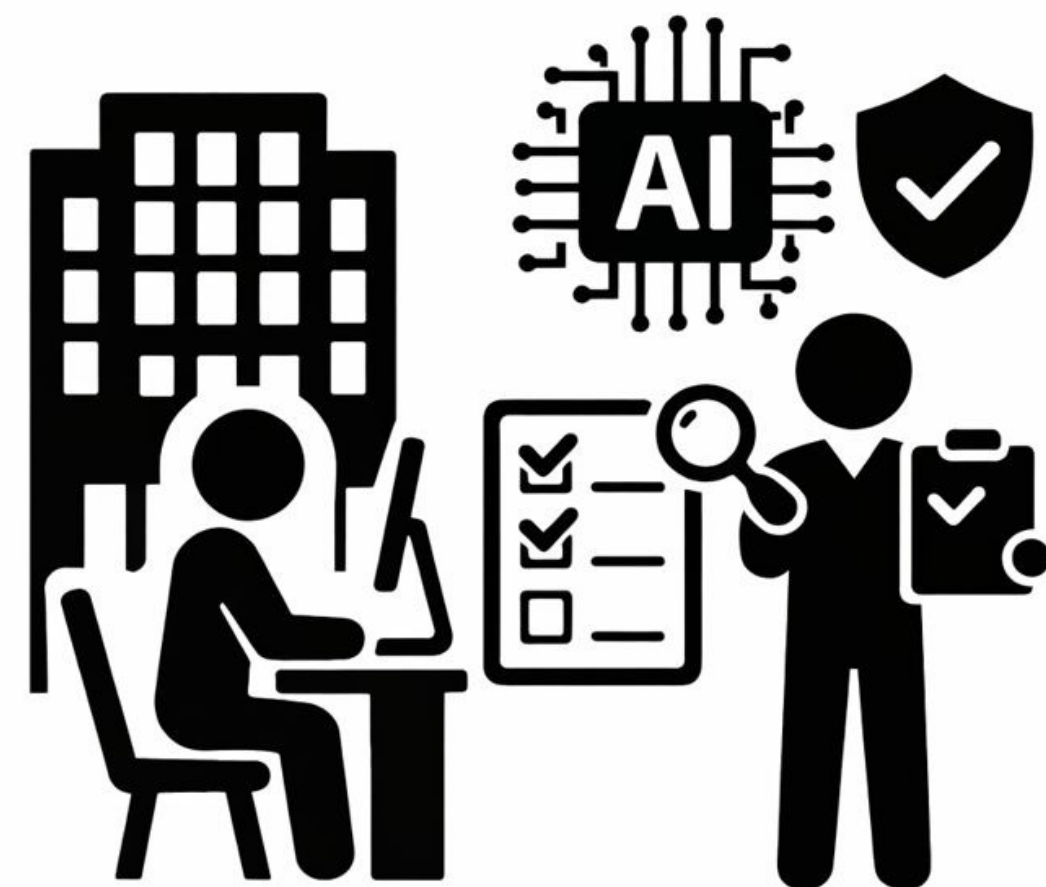
開発者	本編	第3部	+	別添3
提供者	本編	第4部	+	別添4
利用者	本編	第5部	+	別添5

社内AIガバナンス検討会議の“判断軸”として活用
(議論をする際、開発者、提供者、利用者等のどの視点か？等の議論で活用)

リスク対策に活用

④内部監査

AIガバナンスに対しての 社内内部監査



評価軸 本編 第2部C（共通の指針）
体制・整備状況 別添2（AIガバナンス構築）
開発・提供・利用の切り分け 本編 第3～5部
リスクベース 本編 第2部E
継続的改善 別添2（PDCA）

内部監査対応の“指針”として活用

（AI事業者ガイドラインに沿って適切に整備されて運用できているか？等）

リテラシー向上に活用

①経営層

観点



- なぜAIガバナンスは“経営課題”なのか
- AI活用を止めないためのガバナンス
- 国が示すAIガバナンスの共通フレーム
- AIガバナンスのベストプラクティス
- 将来規制を考慮したアクション
- 説明責任を果たせるAIの開発

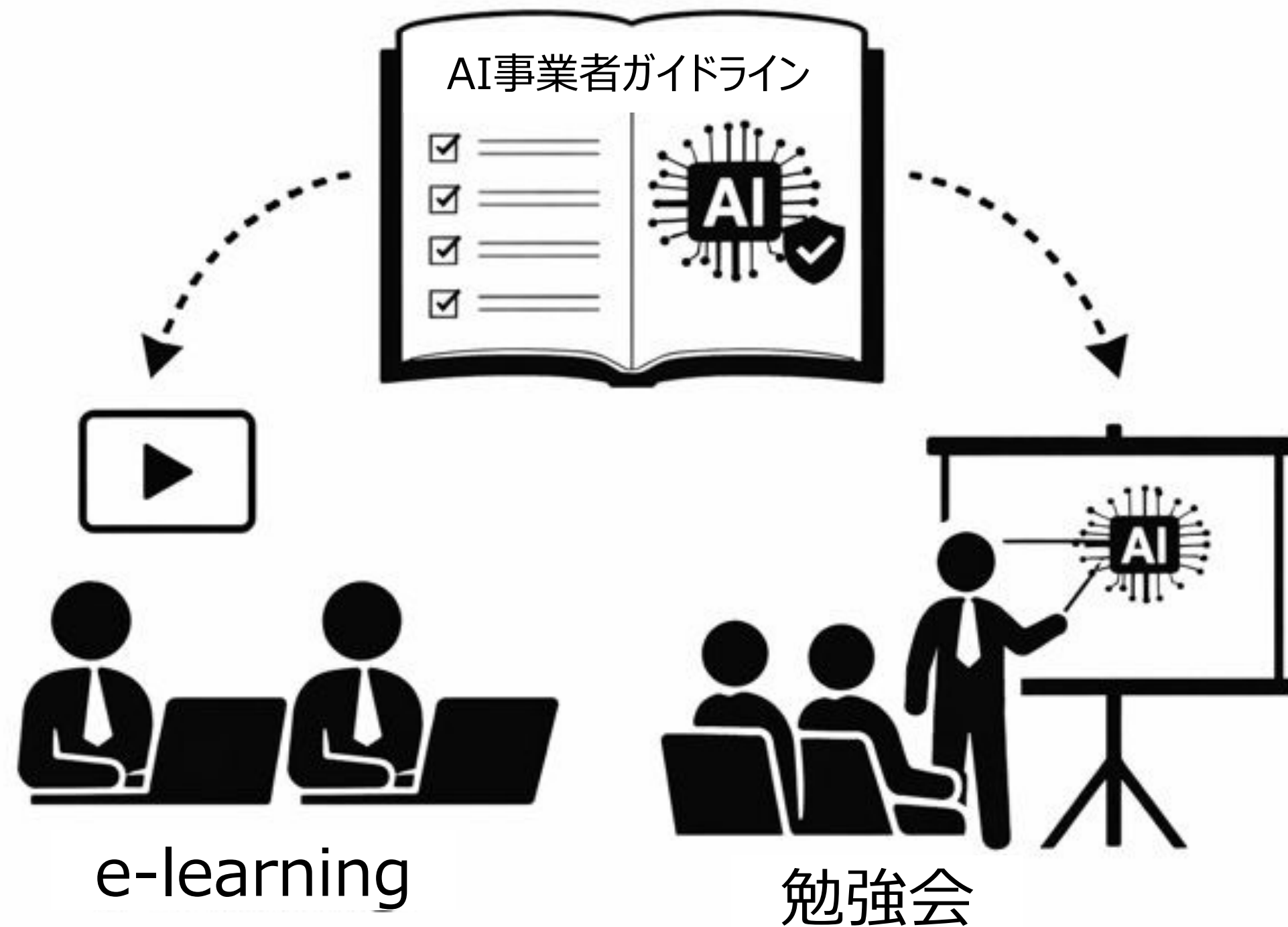
経営層向けにAIガバナンスを説明するために活用

リテラシー向上に活用

②全社員

観点

- AIは何ができて、何ができないのか
- AIを使うときに最初に考えるべきこと
- なぜ社内AIルールがあるのか
- 入力してはいけない情報とは
- AIの出力を信じすぎないために

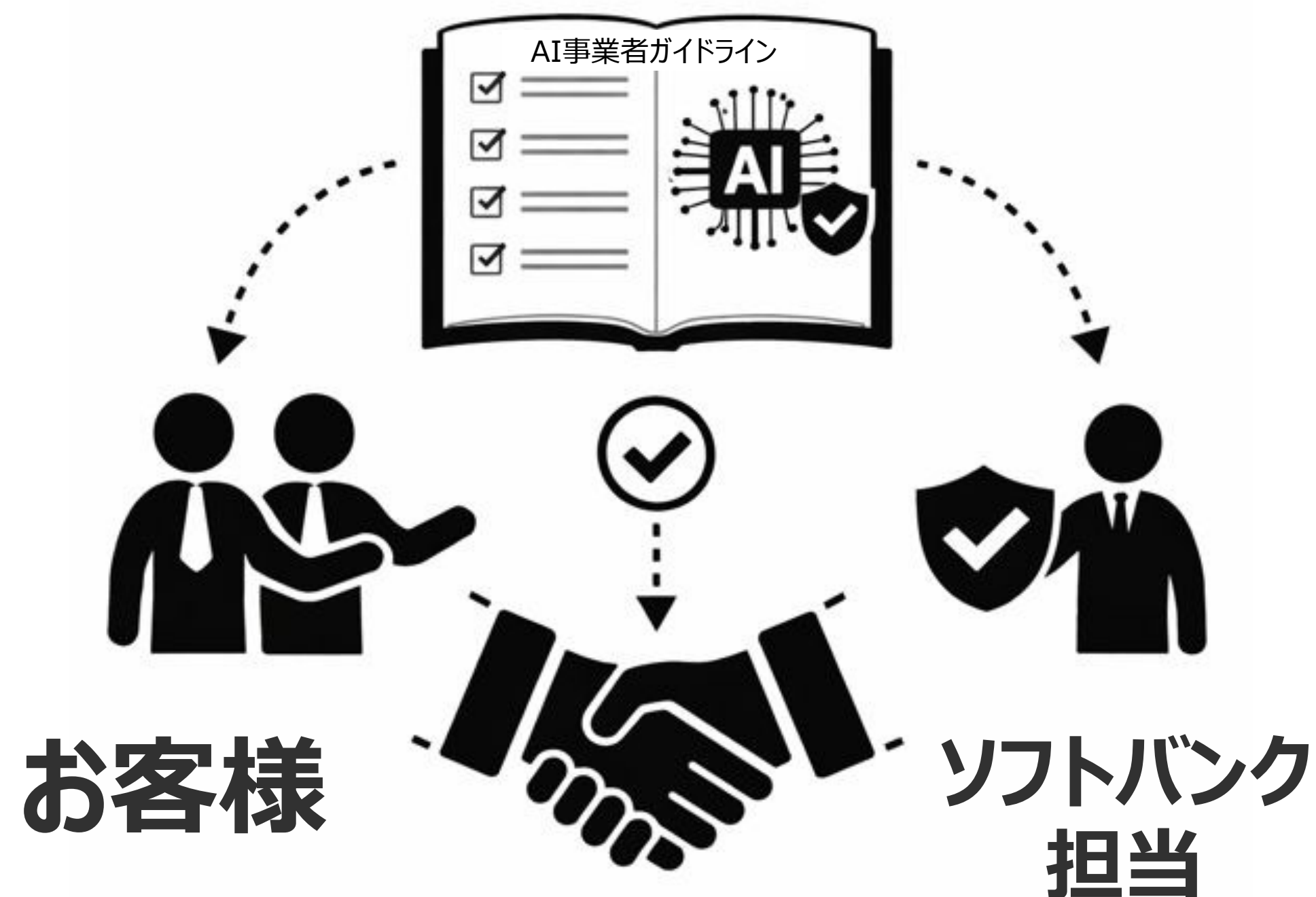


全社員向けAIリテラシー教育の教材として活用

リテラシー向上に活用

③お客様

観点



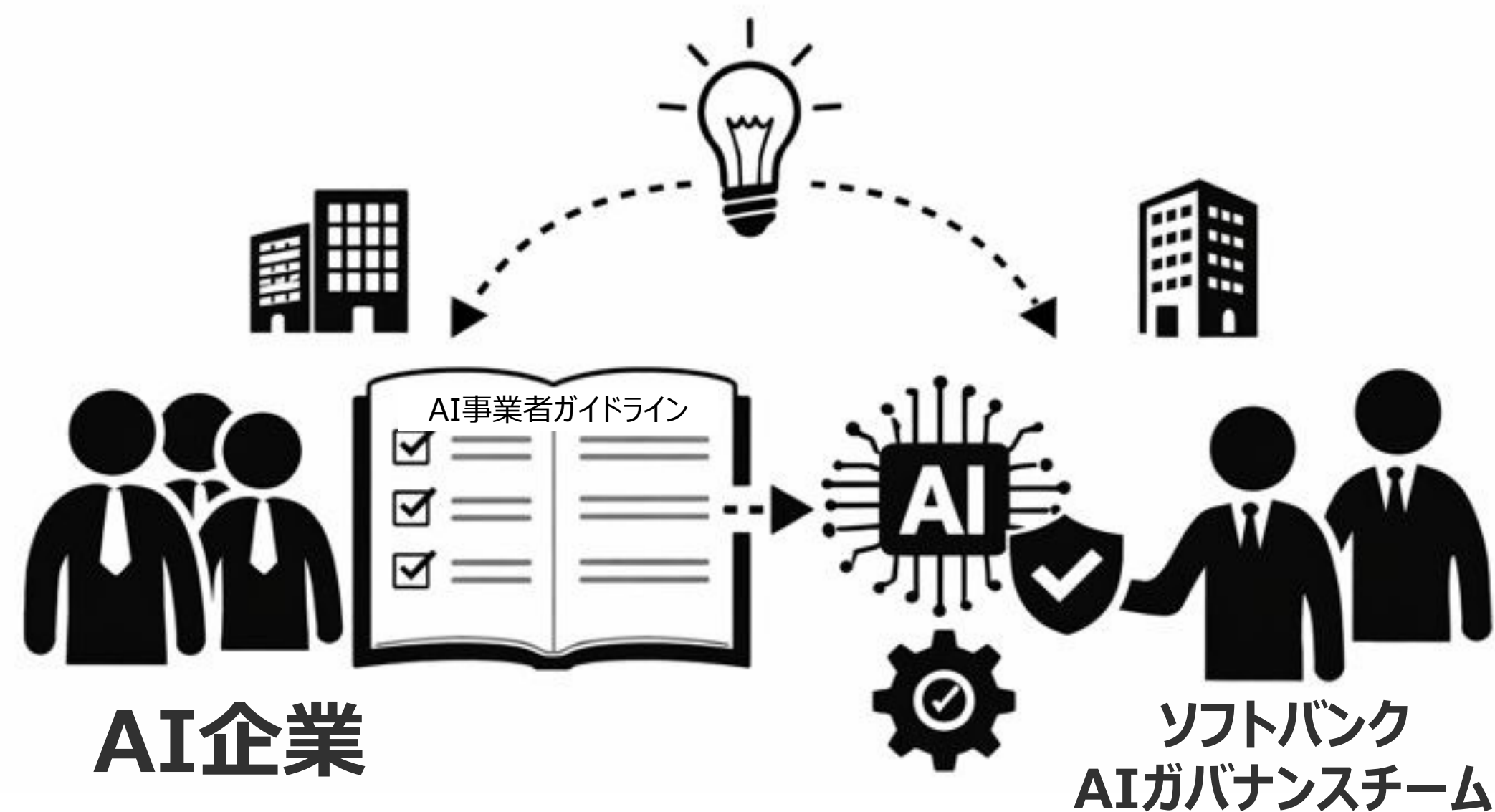
- 日本の公式ガイドラインに基づく設計
- AIのリスクについてどう考えているか
- 責任の明確化
- 将来の規制変化への備え
- 開発者、提供者、利用者のリスク

お客様との議論、ビジネス上の信頼性担保に活用

リテラシー向上に活用

④ 自部署

観点



- 自社のAIガバナンス成熟度は？
- 他社はどこから着手しているか？
- 説明責任を誰が担う設計か？
- インシデントを想定できているか？
- 将来の規制変化に耐えられるか？

自部署向けに他社の実践事例を活用



情報革命で人々を幸せに

